



これまでの経緯

2005年7月

1. 提言「ITS、セカンドステージへ」の概要

1) スマートなモビリティ社会の展開

- 多様なサービスが展開されるITSのセカンドステージでは、ITSが生活・社会の一部となり、社会的課題の解決に貢献、社会を変革

負の遺産の清算



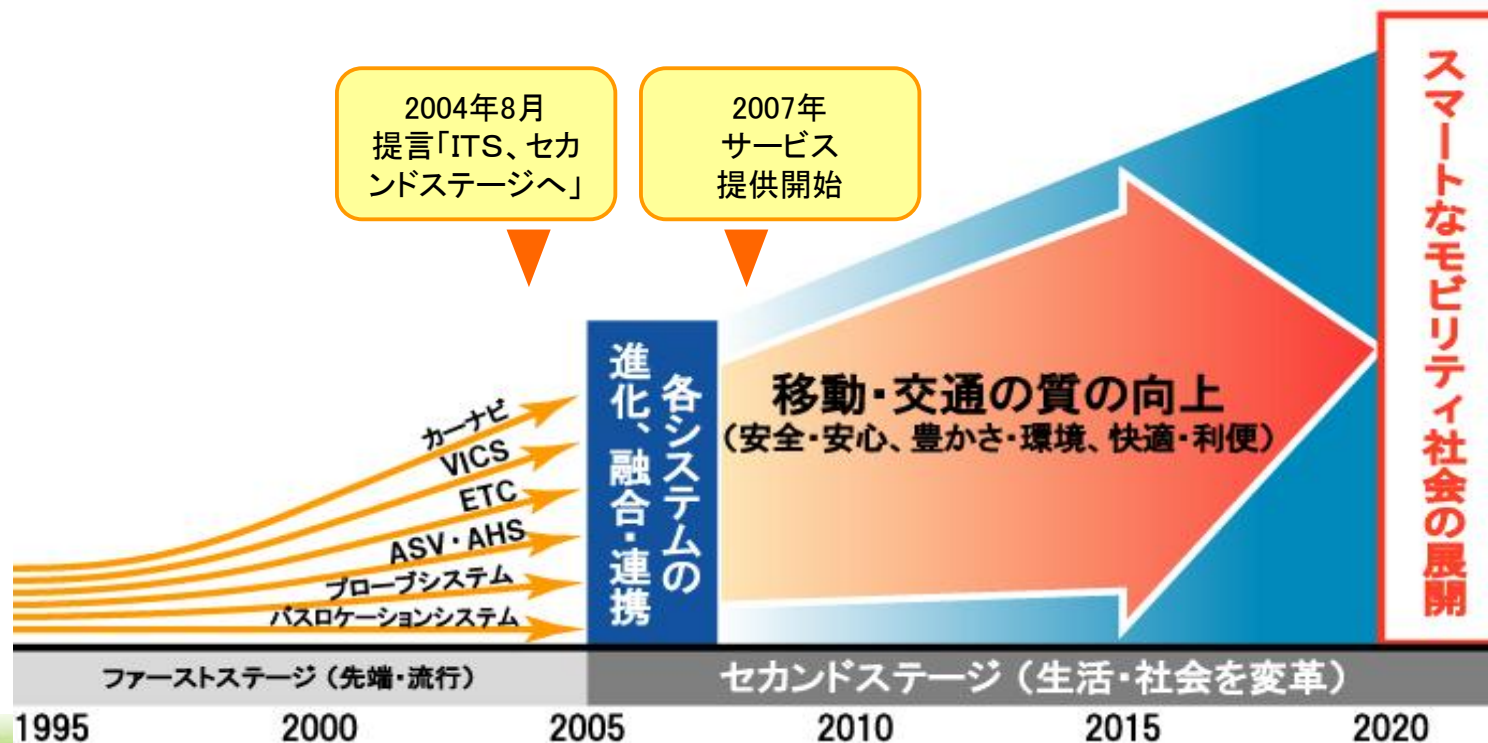
高齢者のモビリティ確保



豊かな生活・地域社会



ビジネス環境の改善



1. 提言「ITS、セカンドステージへ」の概要

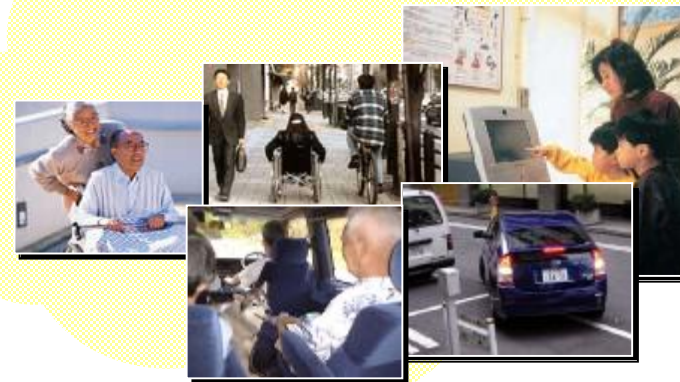
2) スマートウェイのゴール

- ・ 移動・交通の質の向上によって、「負の遺産の清算」、「高齢者のモビリティ確保」、「豊かな生活・地域社会」、「ビジネス環境の改善」の4つを実現することがスマートウェイのゴール

負の遺産の清算



高齢者のモビリティ確保



豊かな生活・地域社会



ビジネス環境の改善



2. 提言の社会的インパクト

- ・ スマートウェイ推進会議がわが国のITSの方向性に大きな影響
- ・ ITS世界会議 愛知・名古屋2004や愛・地球博が好評を博し、また、多くの提言・調査報告が行われた

2004年8月 提言「ITSセカンドステージへ」



2004年10月 提言「ITS推進の指針」(日本ITS推進会議)
～これまでの取組みを継続するだけでなく、セカンドステージとして新たな認識の下に取り組んで行く必要がある。

2004年12月 提言「ITSの普及・発展による「知的交通サービス」の実現に向けて」(財団法人社会経済生産性本部)
～官民のコラボレーション(協働関係)によるITSの供給を

2005年3月 調査報告「進展するITSの現状と将来展望」(日本政策投資銀行)
～持続可能な交通システムをもたらすと同時にユビキタス社会の実現にも通じる



3. 提言を受けた具体的な取組み

- ・ 2004年8月、当会議より「ITS、セカンドステージへ」を提言いただいた
- ・ スマートウェイ推進会議の下部に作業部会を設置。2007年ITSサービス実現に向けた検討を行ってきた(計4回)
- ・ 2005年2月、公募による民間企業23社との官民共同研究を開始。中間とりまとめを得た
- ・ 本日は、これまでの成果の評価と今後の推進に向けたフォローアップを実施

